



(2)は上端に穿孔が二つ認められる。左割れの木簡であるが、孔の場所は、一つがほぼ真ん中、もう一つは左端で半円となっている。下端が折れているが、意図的なものか。木簡の内容・用途は不明。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇一』（二〇〇一年）

同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一五（二〇〇二年）

(市 大樹)



(桜井・吉野山)

奈良・藤原京跡左京二条二坊

ふじわらきょう

- 所在地 奈良県橿原市醍醐町・高殿町
 - 調査期間 第一〇九次 二〇〇〇年(平12) 八月〜一〇月
 - 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
 - 調査担当者 代表 黒崎 直
 - 遺跡の種類 都城跡
 - 遺跡の年代 古墳時代・藤原宮期前後・中世以降
 - 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 調査地は耳成山の南東、左京二条二坊西北坪に位置し、西辺は東一坊大路東側溝にかかる。公衆浴場店舗建設に伴い、二六〇〇㎡を

発掘した。

検出遺構のうち藤原宮期前後に属するものとして、掘立柱建物二八棟、掘立柱堀、井戸等がある。比較的小規模な掘立柱建物が散在する点が特徴といえる。

遺構は方位や重複関係から四時期に細分できる。木

簡が出土したのは第一期に属する井戸SE九一四九である。素掘の井戸で、直径約二m、遺構検出面から井戸底部までの深さは一・五m以上。調査地北部に東に開く「コ」字状に並び立つ小規模建物三棟によって取り囲まれており、これらの建物に伴うものである。井戸埋土中より、飛鳥Ⅳ～Ⅴに属する土師器、須恵器が出土した。木簡は堆積層下層の黒灰色粘土層から、木片、骨片、籠編物の断片などとともに三点が出土した（飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報）一五では井戸SE九一四七から木簡一点が出土したと報じているが、木簡ではないことが判明した。

8 木簡の内容・釈文

いずれも削屑の細片であり、釈読できない。

9 関係文献

奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一五（二〇〇一年）

同『奈良文化財研究所紀要二〇〇一』（二〇〇一年）

（竹内 亮）

奈良・藤原京跡左京六条二坊・七条二坊 ふじわらきょう

- 1 所在地 奈良県橿原市高殿町
- 2 調査期間 第一一三次調査 二〇〇一年（平13）一月～四月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 黒崎 直
- 5 遺跡の種類 都城・集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（桜井・吉野山）

近世の溜池である「高所寺池」堤防改修工事に伴う事前調査である。藤原京の六条大路と東二坊坊間路の確認、左京七条二坊西北坪の遺構検出を目的とした主調査区に加え、池の北・東・西堤に計五カ所のトレンチを設定し、合計二〇八〇㎡を発掘した。

検出した主な遺構は、藤原期の六条大路と東二坊坊間路、左京七条二坊西北坪内の東西溝・井戸・掘立